



【写真】①：7/25のサミットの様子。②～⑥：学校での授業の様子。「対話と協働の学び」では2～4人程度のグループで授業を進めています。⑦：サミットでファシリテーターを務めた静岡大学教育学部 島田桂吾准教授。



【特集】

対話と協働の学びサミット

7/25 開催しました

関係 学校教育課 学校再編係

小諸市の小中一貫教育

小諸市では「小諸市学校再編計画」に基づき、市全域での小中一貫教育を推進しています。9年間の学びと育ちの連続性を重視し、芦原中学校区の4小中学校（令和10年開校に向けた芦原中・坂の上小・水明小・千曲小の義務教育学校）をはじめ、小諸東中学校区も含めて、地域に根ざした教育の質の向上を目指しています。

答えは子どもの中にある

7月25日、小諸市役所にて「芦原中学校区4小中学校合同『対話と協働の学び』サミット」が行われました。義務教育学校の中核である「対話と協働の学び」が各校で進められています。それはどんな学びなのか、実際に学んでいる子どもたちはこの学びをどのように感じているのか、学びの主人公である子どもたちの語りを中心に、現場の教員、保護者など地域の皆さんも含め、専門家のファシリテーターのもと語り合いました。未来の小諸の教育に想いを馳せながら、子どもたちの語りに耳を傾け、将来に大きな希望を感じる時間となりました。

を取り上げました。これにより多くの子どもたちに「発想の転換」が起こり、即座にたくさんのおぼやきが発せられました。教師は「どんないい影響があるんだろう？」とグループに返すと、これまでより活発な対話が各グループでなされました。

これまでの一斉授業では、プラスの側面の考えを数人が発表し、残りの子どもたちはただそれを聞くだけで終わっていたでしょう。

その後の全体での発表の中では、「水不足の解消」「風力発電」「乾燥防止」「自然が増える」「作物の生育に好影響」といった、グループでの対話の内容が全体に共有され、さらに子どもたちの考えが深まってきました。

『対話と協働』の学びのよさ

①グループで学んでいるため、わからなくなったら、すぐにグループの仲間聞くことができる

子ども同士の対話が頻繁に行われ、一斉授業より言語によるアウトプットの場面が多くなり、言語能力の伸長が期待できます。

グループに学びが委ねられる場面が多く、これまでの受け身の構えから、自分たちで考え、主体的に学びに取り組む態度の育成が期待でき、学習効果も高まります。

『対話と協働の学び』とは？

学制が公布された明治以来、日本はずっと「一斉授業」というスタイルで学習を行ってきました。しかし、この一斉授業という形態では、今日求められる資能力や子どもの多様化に答えられなくなってきたおり、その転換が必要となっています。そこで小諸市は、子ども同士の対話の場面を重視した「対話と協働の学び」により、教師の話を聞くこととした従来の一斉授業からの転換を進めています。

対話と協働の学び 具体例

■小学5年生 社会科

「国土の気候の特色」で「梅雨と台風がくらしに与える影響」を考える授業の例

まず共有の課題※として「梅雨や台風の時期や雨が降る地域の特徴」を考えた子どもたちが、「梅雨や台風は私たちのくらしにどんな影響を与えるか？」というジャンプの課題※について考えました。

※下記「転換に向けた2つの視点」参照

最初はグループで議論しましたが、子どもたちは梅雨や台風について「水害」等のマイナスの視点で考えており、それを全体で共有しました。

その中で、プラスの視点も出てくることを予想していた教師は、「山火事とか起こっていたら火が消えるかもしれない」と考えた子どもを見逃さず、「悪い影響だけではないみたいだよ」と、その考え

②「縦軸と横軸」で学びを拡げる ～学び方にこねる～

■縦軸：9年間を通して「対話と協働」による学びを積み重ねていくことで、「学び手」である子どもたちがこの学び方に適応しており、学年を追うごとに学習効果が高まっています。

■横軸：すべての教科領域にわたって「対話と協働の学び」を進めることで、子どもたちがこの学び方を自分自身のものとしていきます。

③「対話と協働の学び」によって 学び方が変わる

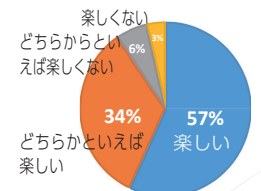
学習内容が大きく変わるわけではありませんが、「学び方」は大きく変わります。「学び方」が変われば、学び手である子どもたちにとって、学びの意味も大きく変わります。

子どもたちへのアンケート

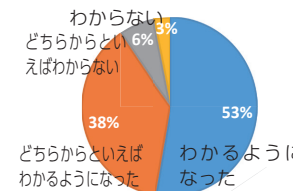
【対象】芦原中学校区の小学3年生以上の児童・生徒

授業の「楽しさ」「理解度」について、いずれも9割強の子どもたちが、「対話と協働の学び」への肯定的な回答をしています。

班やグループでの授業は以前の授業と比較して楽しいですか？



以前よりも、授業が分かるようになりましたか？



対話と協働の学び

◀▶ P4-5では、実際に授業を受けている児童・生徒の皆さんの声をお届けします。



「対話と協働の学び」に携わる方の声

「対話と協働の学び」は、令和6年ころから少しずつその取り組みが始まりました。常に子どもたちの姿を思い浮かべ、「子どもに発し子どもに還る」改革となるよう進めています。授業は子どもと教師が共に創るもの。そんな新たな学びへの挑戦を続けていきます。

小諸市教育委員会 主幹指導主事
前芦原中学校長 相原 修 さん



転換に向けた2つの視点

01 学習形態と学習展開



教師主導の一斉授業から、ペアや小グループで子ども同士が学び合う場面を中心に据えた授業を進めています。



02 学習課題

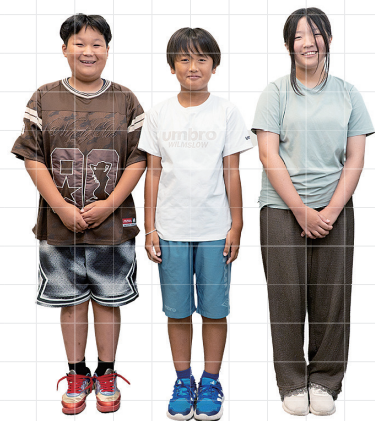
「対話と協働の学び」では1時間で2つの課題で学習することを基本としています。

01 共有の課題

教科書レベルの全員に理解してほしい課題

02 ジャンプの課題

教科書レベルを超えた「共有の課題」の理解を基盤にして高度な探究に挑戦する課題



坂の上小学校 6 年生

【左から】
高瀬 芽生さん
玉林 柊磨さん
土屋 茜さん



千曲小学校 6 年生

【左から】
笹沢 みつきさん
関 愛紘さん
小林 茜花里さん

土屋：デジタル機器が体に起こす問題について考える国語の授業です。班で調べながら自分のことばで発表する授業だったのですが、私は自分のことばで発表するのが苦手で、上手なことばが見つからないなか、班の仲間と協力して分かりやすい説明をすることができました。クラスメイトにデジタル機器の使用時間のアンケートを取ってみたりと、他の人の使い方なども知ることができました。

玉林：2 グループに分かれて村同士の争いを再現・実践してみる歴史の授業が印象に残っています。当時の人の気持ちを考えてみたり、争いの凄さを知ることができました。仲間と作戦を立てながら自分の領地のボールを取られないよう柵で隠してみたりと、色々体験することができました。

高瀬：印象的だったのは、道徳の「心のかたちを表す」授業です。「運動会を振り返る」というテーマで「楽しかった」や「もう一回やりたいか」などを数値で表しました。同じグループの仲間とは全然違う結果となり、他の人の意見を知ることができたり、共有できたことが面白かったです。



小林：算数の「場合分けの順序」の授業が印象に残っています。「全部の組合せは何通りありますか」という問題を考えていたときに、自分が思いつかなかった方法をグループの仲間が行っていて、その方法を試しながら正解することができて嬉しく思いました。

関：印象的だったのは 4 年生と行った図書館に設置するポップ作りです。自分が 4 年生だったときに 6 年生に優しく丁寧に教えてもらったので、自分たちもそれを意識しました。

笹沢：修学旅行の班決めや部屋決めをしたときです。一人ひとりの意見をまとめるのは大変でしたが、みんなの意見をまとめて決まり、博物館などのまわる順番などを今は決めています。一人ひとりが意見を出すことや、それぞれの意見を受け入れる姿勢が大切だと思いました。



「対話と協働の学び」 児童・生徒の皆さんの声

サミットでは一学期で印象に残った授業について発表していただきました。

岡村：「小諸のために何かできることをしよう」という総合の授業で、クラスの枠を越えた 4 人のグループで話し合いをしました。「小諸のパンフレットを作って、さて置く場所をどうしましょう」と議論になったとき、佐久平駅や軽井沢駅などに置かせてもらい周知したり、お祭りなどでジュースを販売して小諸を広めるなど、私が考えつかなかった意見が出て、対話の結果、より良い方向に進んだと思います。また、授業のおかげで活発な意見交換ができており、生徒会活動や特別活動にも良い影響を与えていると感じています。

柳澤：家庭科の授業で、小さい頃の思い出をビンゴ形式で発表する授業がありました。自分の過去を振り返るきっかけとなったほか、授業終了後もその話題で仲間と盛り上がるすることができました。また、共通点を見つけにくかったクラスメイトの意外な共通点を授業を通じて知ることができ、とても良かったです。

相場：数学の√を使う授業で、最終的に答えは出たのですが、同じグループの仲間から答えまでの別のプロセスを共有できたことが良かったです。自分に合った効率的な計算方法を知れて、単元テストで高得点を取ることができました。席を向かい合わせながら授業をしているので、疑問点をすぐに仲間に聞くことができます。



櫻井：算数の円の面積の学習で、グループ内で分担しながら円を分割することで自分も理解が深まりましたし、グループ活動の楽しさを知ることができました。

白鳥：総合の授業で蚕を扱ったことです。えさやりや掃除方法を仲間と共有しながら実践できました。ちょうど昨日成虫になり、班の仲間と共有できたことも嬉しかったです。将来また蚕を育ててみたいと思いました。

柳澤：体育学習発表会で、「対話と協働の学び」として委員会ごとにはフラッグの振りづくりを行いました。完成したときは嬉しかったですし、下級生に振付けを教えたときはとても良かったです。体育が苦手な人でも実践できるような簡単な振りを取り入れました。

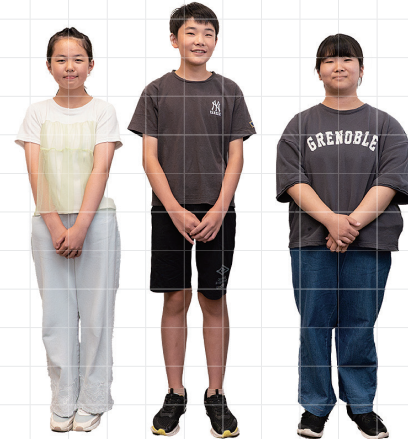


芦原中学校 3 年生

【左から】
相場 佑希さん
柳澤 柚羽さん
岡村 紅音さん

水明小学校 6 年生

【左から】
柳澤 美月さん
白鳥 達葵さん
櫻井 いろはさん



児童・生徒の「放課後の居場所」について

小諸市では令和 10 年に開校する芦原新校における放課後の居場所についての検討を進めており、この度その方針についてまとめました。今後は、児童や保護者の皆様からいただいたご意見等を踏まえながら、具体的な運営内容について検討を進めていきます。方針の詳細については市 HP をご覧ください▶



仮設校舎・引越しについてお知らせします

芦原中学校区の新校整備にあたり、工事期間中の学校生活の場として、校庭に 2 階建ての仮設校舎が設置されました。8/28 (金)～ 29 (土)にかけて、生徒・保護者の皆様のご協力で行った引越作業を行い、8/31 (月)から仮設校舎での 2 学期がスタートします。生徒の皆さんが安心して学校生活を送ることができるよう、引き続き最大限の配慮に努めていきます。